

## 勉強がしたい



圭介は蘭学<sup>らんがく</sup>の勉強のため、緒方洪庵<sup>おがた こうあん</sup>が開いた大阪の適塾<sup>てきじゅく</sup>へ入塾しました。年は違いますが、適塾の門下生には福沢諭吉<sup>ふくざく やんきち</sup>や大村益次郎<sup>おおくむら ますじろう</sup>などもいました。

適塾では、一冊しかないオランダ語の辞書を取り合い勉強をしました。また、お金を稼ぐため、洋書の書写<sup>しやうしや</sup>や翻訳<sup>ほんやく</sup>のアルバイトをしました。

しかし、塾生たちはお金がないため、わざと人とぶつかって水の入った徳利<sup>とくくり</sup>を割り、お酒を弁償<sup>べんしょう</sup>させて飲んだりしました。

圭介は更なる知識を求め、江戸に行きたいと思っていました。しかし、お金がないため、親に帰郷するお金を送ってくれと嘘<sup>うそ</sup>をつき、そのお金で江戸へと向かいました。

## 国産カメラ第一号



江戸で大木塾<sup>おおくまじゅく</sup>に入塾した圭介は、その才能<sup>さいのう</sup>を認められ、すぐに塾頭<sup>じゅくとう</sup>を任せられました。それで有名になった圭介は江川塾<sup>えがわじゅく</sup>に引き抜かれ、そこの教授<sup>きょうじゆ</sup>になりました。

この頃圭介は、誰にも教わらず、オランダ語の本を読んで、日本初のダゲレオタイプ<sup>ダゲレオタイプ</sup>のカメラを作りました。

そのカメラで、最初に撮影<sup>さつえい</sup>したものは、「鬼がわら<sup>おにがわら</sup>」でした。この時のカメラは撮影に長い時間がかかるため、動かない「鬼がわら」がちょうどよかったのです。

薩摩<sup>さつま</sup>の殿様<sup>とのさま</sup>である島津斉彬<sup>しまづ なりあきら</sup>に頼まれ、篤姫<sup>あつりめ</sup>が結婚するときの写真の撮影を指導しました。島津斉彬はその写真を大事にしたとのこと。

Q 圭介が学んだ適塾からは数多くの偉人が輩出されていますが、誰がいるでしょうか?

A 適塾の出身者には、福沢諭吉<sup>ふくざく やんきち</sup>や大村益次郎<sup>おおくむら ますじろう</sup>に加え、手塚良仙<sup>てづか りょうせん</sup>(手塚治虫<sup>てづか おさむ</sup>のひいおじいさん)、佐野常民<sup>さの なるたみ</sup>(日本赤十字社初代総裁)、本野盛亨<sup>ほんの もりあきら</sup>(読売新聞創業者)ら数々の偉人がいます。その中でも、圭介はその功績を広く賞賛され適塾出身の偉人として、大阪大学適塾記念センター内で、パネル展示されています。

Q 圭介が島津斉彬に笑われてしまったと伝えられるのはどんなことでしょうか?

A ざるそばの食べ方<sup>ようがく</sup>です。洋学が得意な圭介は、薩摩の殿様<sup>とのさま</sup>である島津斉彬にその知識を買われ、仲良くなりました。ざるそばと一緒に食べた時、つゆをそばの方にかけて食べる圭介を見て、「圭介は洋学はよく知っているが、ざるそばの食べ方は知らないのか」と笑われたという逸話があります。